

奈良市 協働のQ&A vol.11

市民や市民公益活動団体、事業者などと力を合わせて一緒に課題の解決にあたるには、相手にどのような力や知識を求めればよいのでしょうか。また、その相手が協働に乗り気ではない場合は、どうすればよいのでしょうか。協働の相手に関する疑問とその解答を、2問続けて紹介します。



Q14 協働する相手にはどれだけの力量が必要なの？

A14

求められる力量は事業によってさまざまだけど、相手には課題を解決するために必要な企画力や、決められた期限内に事業が遂行される行動力や実行力などが必要だよ。

また、協働という手法によって公共の利益に対してよりよい効果を生み出すためには、協働する市民公益活動団体や事業者、学校などが、それぞれの専門とする分野における専門知識やノウハウ、経験を持っていることが重要なんだ！

市民がもつ地域に暮らす人としての視点や、実際にサービスを受け取る立場からの視点、また地域や人のつながりなども、協働を行う際にはとても重要な力だよ！



協働して事業を実施していくなかで、協働相手と市で、そのしくみ、ルールや慣習など、お互いの違いが見えてくることもあるよ。その違いをお互いに尊重し、発揮された特性や力量を見極めながら、「共に成長していく」という意識を持って協働することが大切だよ。

Q15 相手が話に乗ってこなかったらどうすればいいの？

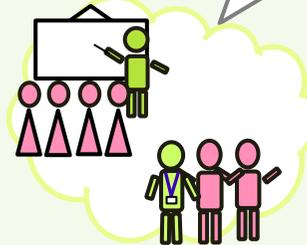
A15

協働しようと思う相手が話に乗ってこない場合は、無理に協働する必要はないよ。協働ってというのは、行政の手が届きにくい課題について、自発的に活動を行う団体などと一緒に取り組むべきものだからね！

だから、しみんだよりやホームページ、その他の様々な広報手段を通して、幅広く協働相手を募集していることを発信し、協働する相手を探すことが必要だよ。

また、市が市民を対象に講座などを開催したりして、市民の意識を高め、市民の自発的な活動を促すことも大切なんだ。それによって、市民が目的意識を持って団体を組織したり、将来の協働の相手へと成長することになるんだよ。

市民が参加する講座や企画などを行って、市民の意識を高めよう！



成長!



目的意識や問題意識を持った市民が、団体を結成するなどして、協働の相手になることがあるよ。



お互いのいいところや得意な分野で協力しあって課題を解決するのが協働だったね！あくまでも協働は課題を解決するための『手段・手法』であって、『目的』じゃないことも忘れないでおかなくちゃ。

NEXT!

Q16 市と市民公益活動団体とのネットワークはどのように作ればいいのか？

…いきなり相手をみつけるのって、難しいよねえ…。

